

国際かんがい排水委員会 (ICID)
第9回アジア地域会議及び
第75回国際執行理事会の対応方針について

農村振興局

令和6年8月28日

農林水産省

目 次

【審議事項】

ICID第9回アジア地域会議及び第75回国際執行理事会(IEC)の対応方針(案)……………	1
---	---

(参 考)

ICID日本国内委員会について……………	5
----------------------	---

【報告事項】

世界かんがい施設遺産について……………	7
---------------------	---

ICID第9回アジア地域会議及び第75回国際執行理事会(IEC)の対応方針(案)

1. 全体概要

- 国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがい排水に係る科学的、技術的知見により、食料や繊維の供給を世界規模で強化することを目的として1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関(本部:インド(ニューデリー))。
- 毎年、国際執行理事会が開催され、各国国内委員会委員が常任委員会や各種作業部会等に参加し、ICIDの政策・運営等に関する議論、技術・情報の交換等を行う。
- 通常は、国際執行理事会と合わせて、3年に一度、総会、地域会議、世界かんがいフォーラムをローテーションで開催。今年アジア地域会議と国際執行理事会を同時開催。

総会

地域会議

(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの4地域に分かれて会議を開催)

世界かんがいフォーラム (WIF)

国際執行理事会 (毎年開催)

常任委員会(技術活動委員会、財務委員会等)

委員会(総会組織委員会、ICIDジャーナル編集委員会等)

地域作業部会(アジア地域作業部会等)

作業部会/タスクフォース

(灌漑システム部会、気候変動部会、WWF10タスクフォース等)



農業農村振興整備部会

日本国内委員会

ICIDに関する事項、かんがい排水の改良発達に関する重要事項等を調査・審議

学術経験者等をメンバーとし、かんがい・排水・洪水等に関する知見の収集・発信

委員 : 渡邊紹裕委員長(京都大学名誉教授) 等 19名

事務局 : 農林水産省農村振興局整備部設計課

ICID第9回アジア地域会議及び第75回国際執行理事会(IEC)の対応方針(案)

2. 第9回アジア地域会議及び第75回国際執行理事会の概要

- 第9回アジア地域会議及び第75回IECは、2024年9月1日～7日にオーストラリア・シドニーで開催。
- アジア地域会議のテーマは「予測不可能性が増す気候の中で、経済的に実行可能な食料安全保障と持続可能な都市空間を実現するための灌漑の役割」。
- IECでは、3つの常任委員会、3つの委員会、4つの地域作業部会、16の作業部会/タスクフォースで議論された事項について、各国内委員会の代表が審議し、決議。
- 各委員会や作業部会は、ICID日本国内委員会の委員が分担して対応。
- 今回のIECには、日本国内委員会から渡邊委員長ほか12名の委員及び事務局が参加予定。

3. 対応方針

- 近年、世界の食料需給の変動や地球温暖化の進行に伴う食料安全保障への懸念が高まっており、安定的な食料確保に向けた効率的かつ持続可能なかんがいの実現が不可欠となっている。このため、水田かんがいが有する高い生産性、持続性及び多面的機能並びに気候変動対策に関する日本の知見を各国に提供していくことにより、限りある水資源の有効利用(かんがい効率の向上等)への貢献及び水田かんがいに対する国際的理解の醸成を目指す。
- これを踏まえ、日本国内委員が、所属する作業部会等において、上記に沿って議論を行うとともに、最新の研究等について情報発信及び収集を行う。
- 各国の国内委員会が参加するIECにおいて、ICIDの重要事項を決定する際には、我が国に不利益が生じないよう、情報収集を行い対処する。
- 本年で任期満了を迎える副会長(3名)の後任を決める選挙が予定されており、日本国内委員会として、地域バランスやこれまでの活動実績等を考慮し、投票を行う。

4. 国内委員等関係者の発表内容

- ・国内委員及びかんがい排水関係の研究に携わる若手技術者が、国際ワークショップ等で水田の効率的な水管理や防災機能等に関する日本の知見を発表する。

【国際ワークショップ論文提出・発表予定者】

- ・奥田透副委員長(全国技術連盟委員長)

テーマ: アジアの食料安全保障のためのかんがい排水に関する技術レポート(日本の事例研究)

- ・加藤亮委員(東京農工大学大学院連合農学研究科教授)

テーマ: 印旛沼の循環灌漑における水田排水の水質モニタリング

【若手技術者】

- ・大倉 芙美(国際農林水産業研究センター任期付研究員)

テーマ: 循環灌漑における水収支と水質の総合的な分析

- ・大塚 健太郎(岐阜大学大学院連合農学研究科修士課程)

テーマ: 気候変動と都市化の進展に伴うかんがい排水施設の水管理の変化 ～木津用水の事例～

- ・小田 広希(東京大学大学院新領域創生科学研究科博士後期課程)

テーマ: 将来気候がタイ東北部の雨期米作付日に与える影響

- ・金子 貴信(新潟大学大学院自然科学研究科修士課程)

テーマ: 途上国における機械学習による洪水予測

- ・謝 文鵬(東京大学生産技術研究所特任研究員)

テーマ: ニューラルネットワークを包含した物理理論による水田水温の精密シミュレーション



ICID国際執行理事会 (IEC)

PCSO (組織委員会)

PCTA (技術委員会)

PFC (財務委員会)

MB (運営委員会)

CO (本部)

ASRWG

アジア地域部会

AFRWG

アフリカ地域部会

ERWG

ヨーロッパ地域部会

AMRWG

アメリカ地域部会

ICID-YPF

若手灌漑技術者フォーラム

C-EVENT

イベント組織委員会

AC-IRPID

かんがい排水国際研究プログラム

Irrigation and Drainage

WG-IWM&D

かんがい用水の管理と開発部会

WG-LDRG

農地排水部会

WG-NWREP

水資源と環境保護部会

Sustainable Development

WG-HIST

歴史部会

WG-I & OMVE

開発と管理VE部会

WG-CDTE

能力開発研修教育部会

Natural Resources

WG-SCER

海岸環境の持続的再生部会

WG-IDSST

社会・経済変革期における灌漑排水部会

WG-WFE-N

水・食料・エネルギーネクサス部会

WG-RWH

レインウォーターハーベスト部会

Others

EB-JOUR

ジャーナル編集委員会

TF-WEWM

水管理における女性活躍タスクフォース

TF-WWF10

WWF10タスクフォース

TF-MTD

多言語技術辞書タスクフォース

Climate Change and Impacts

WG-CLIMATE

気候変動部会



: ICID日本国内委員が所属する部会等

(参考)ICID日本国内委員会について

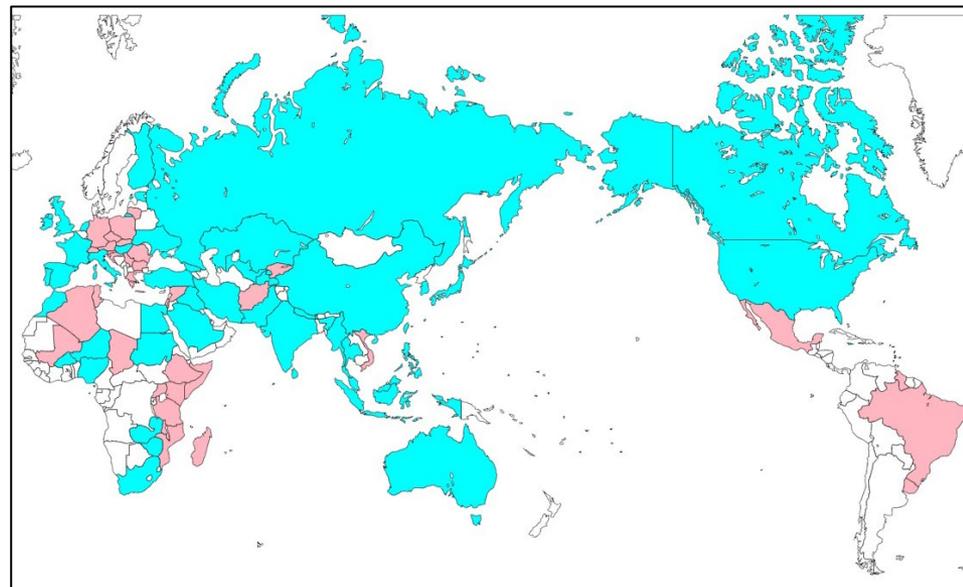
○ 日本は ICID日本国内委員会を設置し、1951年にICIDに加盟。日本国内委員会の委員による作業部会等での活動を通じ、我が国と世界のかんがい排水技術の情報を収集・発信し、世界の食料安全保障の確保等に貢献。

【ICID日本国内委員会委員】

委員名 (下線:参加委員)	所 属	役 職
<u>奥田 透</u> 【副委員長】	全国農村振興技術連盟	委員長
<u>加藤 亮</u>	東京農工大学大学院連合農学研究院	教授
<u>木村 匡臣</u>	近畿大学農学部環境管理学科	准教授
<u>久野 叔彦</u>	(株)三祐コンサルタンツ	顧問
<u>越山 直子</u>	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水利基盤チーム	主任研究員
<u>雑賀 幸哉</u>	サンスイコンサルタント(株)	取締役
<u>清水 克之</u>	鳥取大学農学部生命環境農学科	教授
<u>杉浦 未希子</u>	上智大学グローバル教育センター	教授
<u>辻本 久美子</u>	岡山大学大学院環境生命科学研究科	准教授
<u>長野 宇規</u>	神戸大学大学院農学研究科	准教授
<u>乃田 啓吾</u>	東京大学大学院農学生命科学研究科	准教授
<u>福田 信二</u>	東京農工大学大学院農学研究院	教授
<u>松野 裕</u>	近畿大学農学部環境管理学科	教授
<u>皆川 裕樹</u>	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究 機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域	上級研究員
<u>宮津 進</u>	新潟大学農学部	助教
<u>向井 章恵</u>	国立研究開発法人 農業・食品産業総合研究機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域	グループ長 補佐
<u>森 卓</u>	NTCインターナショナル株式会社	代表取締役 社長
<u>吉川 夏樹</u>	新潟大学農学部	教授
<u>渡邊 紹裕</u> 【委員長】	京都大学	名誉教授

【ICID加盟国・地域の分布】

2024年1月現在



■ :加盟国 47ヶ国・地域

■ :準加盟国35ヶ国

地域	加盟国	準加盟国	合計
アフリカ	9	12	21
アメリカ	3	4	7
アジア・オセアニア	22	6	28
ヨーロッパ	13	13	26
合計	47	35	82

(参考)ICID副会長選について

- ・本年で任期満了を迎える副会長(3名)の後任を決める選挙に対して、マレーシア、モロッコ、タジキスタンから各1名が立候補。候補者は3名のみであるため投票は3名の候補者の序列を決めるために行われる。

会長(任期2023~2026)

氏名	国名
Dr. Marco Arcieri	イタリア

現副会長

	氏名	国名	任期
1	Dr. Tsugihiko Watanabe	日本	2021-2024
2	Mr. Aziz Fertahi	モロッコ	2021-2024
3	Mr. Ali Reza Salamat	イラン	2021-2024
4	Mr. Bruno Grawitz	フランス	2022-2025
5	Prof. Sylvester Mpandeli	南アフリカ	2022-2025
6	Mr. Kushvinder Vohra	インド	2022-2025
7	Dr. Tian Fuqiang	中国	2023-2026
8	Dr. Vadim Sokolov	ウズベキスタン	2023-2026
9	Dr. Watchara Suiadee	タイ	2023-2026

副会長選立候補者(任期2024~2027)

氏名	国名
Dato' Ir Mohd. Azmi Bin Ismail	マレーシア
Mr. Mohd. Bouaam	モロッコ
Dr. Bahrom Gaforzoda	タジキスタン

継続

改選前の地域別副会長数

- アジア・オセアニア地域 6(2)
- アフリカ地域 2(1)
- ヨーロッパ地域 1

()は今回任期満了する副会長数

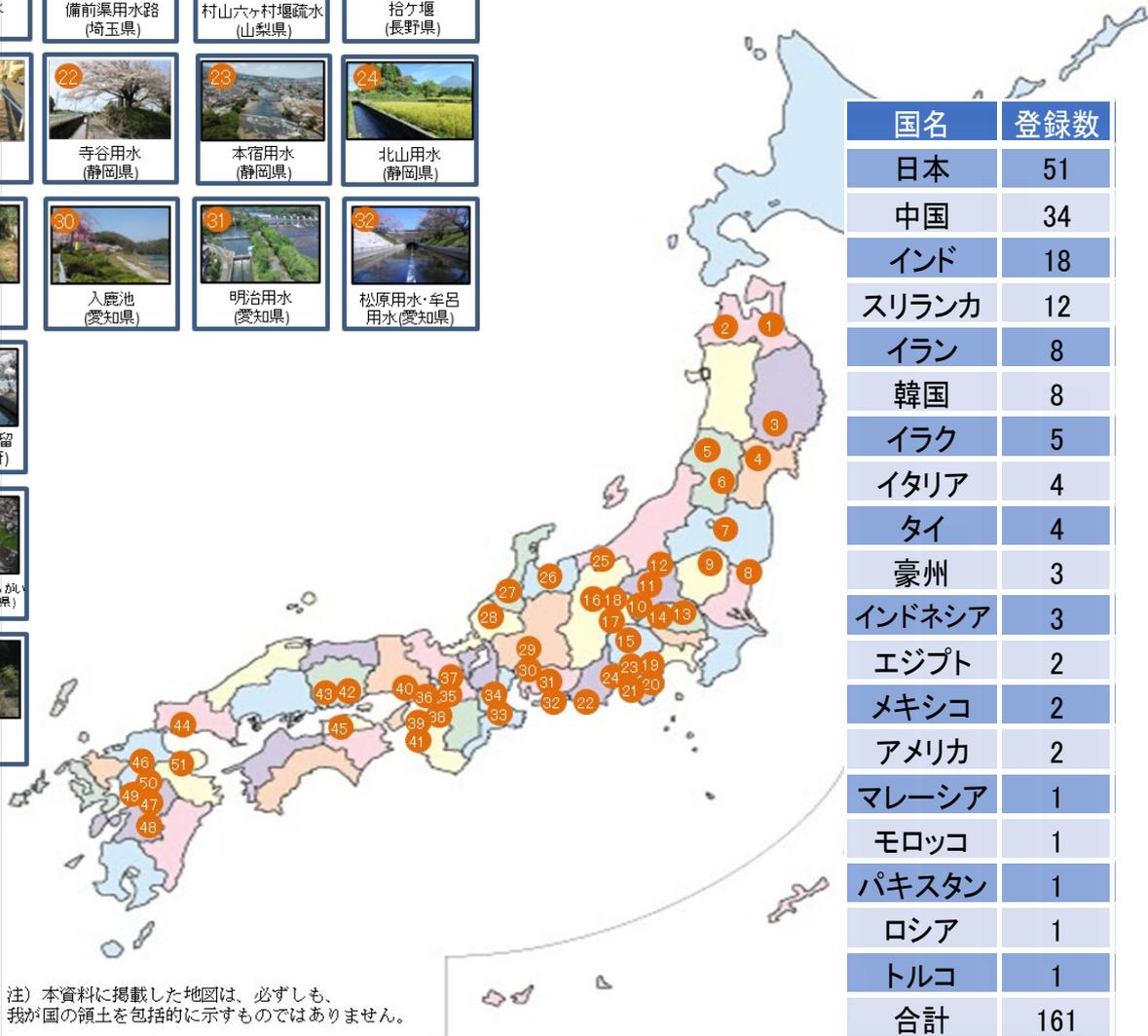
- ICIDは、歴史的かんがい施設を認定・登録する「世界かんがい施設遺産」制度を2014年より開始。2014～2023年にかけて日本の51施設を含め世界の161施設が世界かんがい施設遺産に登録。
- 2024年分の登録に向けて、ICID日本国内委員会は、施設管理者等から応募のあった3施設をICID本部に申請(5月)。ICID本部の審査委員会による審査を経て、9月のIECにおいて登録施設が発表され、受賞者に対し、登録証と盾の授与が行われる。

【2024年にICID日本国内委員会からICID本部に申請した候補施設】

対象施設・登録基準
【対象施設】
○建設から100年以上
○次のいずれかの施設
①ダム(かんがいが主目的)
②ため池③堰、分水施設
④水路 ⑤水車⑥排水施設等
【登録基準】
○かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの
○構想、設計、施工、規模等が当時としては先進的、卓越した技術であったもの
○長期にわたり、特筆すべき運営・管理を行ってきたもの 等



(参考) 世界かんがい施設遺産の登録済み施設 (2014年～2023年)



国名	登録数
日本	51
中国	34
インド	18
スリランカ	12
イラン	8
韓国	8
イラク	5
イタリア	4
タイ	4
豪州	3
インドネシア	3
エジプト	2
メキシコ	2
アメリカ	2
マレーシア	1
モロッコ	1
パキスタン	1
ロシア	1
トルコ	1
合計	161

注) 本資料に掲載した地区は、必ずしも、我が国の領土を包括的に示すものではありません。